

趣旨

敬愛する土屋健治先生が亡くなられて19年もの時が過ぎました。今回の追悼イベントは、二回目となります。5年前の第一回の追悼シンポジウムの企画者であった土屋先生のご友人の方々からバトンを渡された私たちは、土屋先生の教えを直接もしくは間接的に受けた世代です。私たちは土屋先生の東南アジアに対する姿勢や思いを私たちなりに解釈して、今回のイベントに表現したいと考えました。学術的なシンポジウムだけでなく、家族連れで来ていただける企画、東南アジアの人にも参加していただけるような企画にしようと、この一年間あまり準備を行って参りました。その結果として3つの空間、映像空間、学術空間、祝祭空間を設け、「見る、学ぶ、食べる」イベントを企画しました。土屋先生の教えの一端がこのイベントに映し出され、来て下さった皆さんが良いイベントだったと思っていただけると幸いです。

準備委員会を設けて定期的に集まつた私たちは、土屋先生に貴重な機会を与えていたいたと感謝しています。一つの目標に向かって久しく会わなかつた土屋先生の教え子が集まれたこと、先生のご遺徳を感じずにはいられません。私たちの心の中に生き続けている土屋健治先生を偲びつつ、この企画を通じて若い世代の人たちに土屋先生が伝えようとした「大切なこと」を伝えたいと思います。

今回のイベントの開催に際しては、土屋先生のご家族の皆様、ご友人の皆様に物心両面のご支援をいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。また、共催、協力いただきました皆様に対しまして厚く感謝申し上げます。

土屋健治追悼記念イベント実行委員会 代表 森山幹弘

主催
土屋健治追悼記念イベント実行委員会

共催
京都大学東南アジア研究所
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
インドネシア留学生協会（PPI）京都・滋賀支部

協力
国際交流基金ジャカルタ 日本文化センター
伊藤忠インドネシア

<http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/event/tsuchiya20140405>
<https://www.facebook.com/CommemoratingTsuchiyaKenji>

新しい 東南アジアを 見る、 学ぶ、 食べる

～土屋健治追悼イベント～

日 時： 2014年4月5日午前10時～午後5時半

場 所： 京都大学東南アジア研究所
稻盛財団記念館3階中・大会議室

NEW LANDSCAPES OF SOUTHEAST ASIA
Commemorating the late Professor Tsuchiya Kenji

映像と学術空間（中会議室）

映像と学術空間では、特撮ヒーロー番組、ドキュメンタリー映画の上映と、学術シンポジウムを行います。

映像は日イ合作の特撮番組「ガルーダの戦士ビマ」（10:00～）、インドネシアのトゥウイ・スジャンティ・ヌグラヘニ監督によるドキュメンタリー映画「デノクとガレン」（16:00～）を上演します。

学術シンポジウム（13:00～）では、新進気鋭の研究者が東南アジアにおいて生じている新しいつながりのかたちを描き出します。土屋健治が明らかにしたようなナショナリズムに向かう不斷のプロセスに加えて、必ずしも国民形成のみに回収されないような、さまざまつながりが重層的かつダイナミックに生まれてきている東南アジアの現在について、みなさまとともに考えてみたいと思います。

◆ 日イ合作の特撮ヒーロー番組「ガルーダの戦士 ビマ」 [10:00～10:30]

(BIMA Satria Garuda. インドネシア 2013)

『ビマ・サトリア・ガルーダ』(BIMA Satria Garuda)は、ガルーダの戦士ビマ(BIMA)に変身する力を手に入れた主人公レイが地球征服を企む悪の組織ウドー(Udo)と対決する姿を描いた、インドネシア初の子供向け特撮スーパー番組です。

◆ 学術シンポジウム [13:00～16:00]

「東南アジア研究の新風景：21世紀のつながりのかたち」

基調講演：押川典昭「土屋健治の学問：まるごと理解すること」

話者：小林 知「表があれば、裏がある：

カンボジア農村生活のフィールドワークから」

見市 建「イスラーム化と再編される人々のつながり：
インドネシアから」

坂川直也「東南アジアのドキュメンタリー映画における
民際の広がり」

コメンテーター：貞好康志

◆ ドキュメンタリー映画「デノクとガレン」 [16:00～17:30]

(インドネシア 2012 監督：トゥウイ・スジャンティ・ヌグラヘニ)

豚を飼育して生活するデノクとガレン一家。父が借金を残して出奔した夫の実家で、母や弟たちと一緒に生活する。常に経済的な問題を抱えながらもどこか楽天的な雰囲気に満ちた一家の日々が伸びやかに描かれる。（<http://www.yidff.jp/2013/nac/13nac02.html>）

祝祭空間（大会議室）

祝祭空間（大会議室）では公演、飲食ブース、展示、物品販売、短編映画上映などを行います。公演は関西を中心に全国で活躍中のパフォーマンス・ユニット Hana☆Joss によるジャワ伝統芸能（11:30～12:30）です。飲食ブースは東南アジアからの皆さんのが自慢の腕をふるってくださいます（10:00～15:00）。その他、土屋健治と関わりの深いタマン・シスワ学校を紹介する展示、アジア雑貨や書籍の販売、短編映画 Epic Java の上映など様々な人々がともに楽しめる空間を目指します。

また、小会議室(2)では主催メンバーとておきの写真展示「東南アジアの新風景」をお楽しみください。

◇ 短編映画 Epic Java 上映

[上映は随時]
Epic Java はセリフやナレーションを用いずに音楽と映像でジャワの壮大な風景や歴史的遺跡などを描いていく約30分のドキュメンタリー映像です。

◇ ジャワ伝統芸能公演 (Hana☆Joss)

[11:30～12:30]

ガムラン音楽を伴奏に、土屋健治の愛した影絵芝居ワヤン、ジャワ農村の祭りを彩る賑やかな獅子舞バロンガン、そして格調高い古典詩の朗唱などを楽しんでいただけます。影絵芝居の演目はマハバラタ物語で活躍する英雄ビモ（ビマ）の誕生にまつわる物語「ビモの羊膜」。ご期待ください。

◇ 東南アジア各国の屋台(食べ物と小物販売)

[10:00～15:00]

(インドネシア、ミャンマー、タイ、フィリピン)

◇ 展示「タマン・シスワの世界」

[10:00～15:00]

30年前に土屋健治ゆかりのタマン・シスワ学校にてかけ、その風景のただ中で生活した原田晋が、写真や映像とともにその生の姿を紹介します。

土屋健治 略歴

1942年信州松本市に生まれる。松本深志高校から東京大学へ入学。衛藤瀧吉・永積昭らに師事して東南アジア研究を志す。東大大学院からインドネシアのガジャマダ大学へ留学。帰国後、千葉大学を経て1974年京都大学東南アジア研究センターへ移り、以後ジャワの政治思想や文化を中心とするインドネシア研究に生涯を捧げる。斬新な構想と精緻な分析のみならず、現地の人々と社会への深い愛情、独特的格調高い文体などから「土屋アジア学」とも称される個性的な学の体系を構築し、国際的に活躍した。

主著に『インドネシア民族主義研究—タマンシスワの成立と展開』(創文社、1982年)、『カルティニの風景』(めこん、1991年)、『インドネシア思想の系譜』(勁草書房、1994年)などがある。また、日本・インドネシアの諸大学で教鞭をとり、多くの後進を情熱的に育てた。1995年、52才の若さで惜しまれながら病没。翌年、土屋を慕う国内外の人々の手で878頁に及ぶ追悼集『時間の束をひもといて』が刊行された。2009年には第1回の追悼シンポジウムも開かれている。